

社会の役に立つことが見えているから 工学は面白いんです。

Associate Professor Chiyomi MIYAJIMA



研究内容

ドライバーの安全運転を支援するシステムを研究

現在は「自動車運転行動信号処理」について研究しています。ドライバーの行動や状況から危険を予測したり、運転の荒さを診断するといったドライバーの行動分析を行っています。例えばペダルの踏み方やハンドルの切り方、どのように前方の車についていくのか、運転中に音楽を聞くとどれくらい危険度が増すかなど、簡単に言えば安全運転のための研究ですね。実験では実際に車を運転してもらってデータを取り、個人の運転の違いや運転中の行動を分析します。面白かったのは、300人くらいにアクセルペダルとブレーキペダルの踏み方のデータを取り運転パターンをモデル化すると、7割くらいの確率で誰が運転したかを当てられます。それくらい運転の仕方には個人差があるということです。人のさまざ

名古屋大学大学院
情報科学研究科
特任准教授

宮島 千代美

9

ROLE MODEL

PROFILE

名古屋工業大学 工学部 知能情報システム学科 卒業。
同大学院工学研究科 電気情報工学専攻 博士前期課程修了。
日本学術振興会特別研究員を経て、同研究科 博士後期課程を修了。
2001年より名古屋工業大学 工学部 知能情報システム学科 助手。
2003年名古屋大学大学院 情報科学研究科 メディア科学専攻 助手。
2007年同専攻 助教。
2016年名古屋大学 未来社会創造機構 特任准教授。現在に至る。

まな運転行動をコンピュータで処理して分析することで、ドライバーの安全運転や快適なドライブを支援するシステムの開発に役立てればと思っています。研究の成果や論文が認められて受賞したり、企業や海外と共同研究ができることが大きなモチベーションになりますね。

ります。その間に結婚と出産を経て、現在は家族にサポートをもらいながら研究を続けています。

女性の工学について

研究は女性視点と男性視点とのバランスも必要

ただ、工学の分野では女性研究者はまだまだ少数派。でも私自身は、そういう希少な存在というのにも気に入っているんですよ。実際女性だからといって困ったという経験はほとんどありません。感じるの女性がいる研究室はバランスが取れているということです。女性ならではのきめ細やかさと、男性の俯瞰的な視点との役割分担ができていると思うから。そういう意味では、研究者に限らずどんな職業でももっと女性に活躍してもらいたいと思いますね。いまこうして研究者を続けられるのは、チャンスとタイミングそして周囲の環境に恵まれているからだと思います。頼れるものは頼る、家族には甘える、自分で出来ない事は諦めるというスタンスでないと仕事と家庭との両立は難しいですね。研究や教育で日々忙しい生活ではありますが、好きなネイルとまつ毛エクステは欠かせません。それからハイヒールも好きで50足は持っています。こうしたちょっとした気分転換の時間を上手に取り入れることも、研究を続けるコツなのかもしれませんね。



工学の魅力について

企業との連携で先端技術に触れられるのが魅力

工学の魅力は直感的なところ。目に見えるモノを作ったり、身近で役立つようなわかりやすい技術の研究をしているところがいいですね。名工大時代は、知能情報システムという情報系の学科で音声認識の研究をしていました。名工大の入口の大型ディスプレイに登場し、来校者の音声を認識して学内を案内している3Dキャラクターの「メイちゃん」も、私が卒業した研究室で音声言語処理技術の研究により開発されたものです。また、学生のうちから企業との連携プロジェクトに参加することができるチャンスが多いのも工学分野の魅力ですね。実践的な体験ができるので、スキルアップにも大いに役立つと思いますよ。特に私が行っている運転行動に関する研究は、車の進化によって求められることも変化しますし、研究の幅も広がるなど大きな可能性を秘めていると感じています。特に自動車産業が盛んなこのエリアでは、企業との共同研究も多く、研究に必要な最新の車両や設備なども充実していてやりがいを感じています。最先端の技術を開発できるチャンスもあり、面白い研究分野だと思います。

研究者への道のり

チャンスとタイミングに恵まれて研究者の道へ

高校までのんびりとした環境で育ち、親から勉強しなさいとは言われることもなかったのが、将来大学院に進学するとは夢にも思っていませんでした。高校では英語や数学、物理が比較的好きでした。本当は英語の先生になりたかったのですが、姉から工学部の方が就職しやすいとアドバイスをもらい、愛知県に住んでいた姉の家から通える名古屋工業大学に進学。姪の世話や家事などのサポートをしながら大学生活を送っていました。学部から修士課程への進学は、推薦をもらったことがきっかけです。その時点では研究者を目指すつもりはなく、修士課程を修了したら就職する予定でした。ところが指導教員に博士課程への進学をすすめられ、日本学術振興会の特別研究員に応募し奨学金をもらって研究者の道を歩むことになりました。結局チャンスとタイミングに恵まれて研究者になった気がしますね。その後、名工大で2年間教員として勤め、名大へ移ってもう13年にな

学生の皆さんへ



今後、社会で女性研究者はますます必要とされると思います。女性ならではのきめ細やかさを活かして、ぜひ研究者として活躍してください。